

ONDO 夢降る高島

詞 木下源也

ぐるりと囲む 湖（うみ） 山 川に
守られ優しく 生きる町
心浮き浮き 春風受けて
歩く浜辺の ふたり連れ
草木も花も そわそわと
なびくよ高島 夢降る里
ぐるっと高島 春爛漫

晴れりや眺めは 日本一の
きらめく漣 琵琶の湖（うみ）
白く輝く 尾浪を曳いて
行くは竹生島（ちくぶ）の 観光船
夏空高く 沸く雲に
響くよ高島 わらべ歌
ぐるっと高島 夏盛り

落葉樹（もみじ）が 朱色（あかく） 山肌染めりや
近づく木枯らし 気を急かす
生きる大地の 恩恵（めぐみ）を受けて
ホッとひと息 虫の音聴いて
チョッピリお世話な おばちゃんが
今日も高島 駆け巡る
ぐるっと高島 秋燃える

西の山並み 白銀色に
冬陽が眩しく きらめいて
踊るシュプール はじける笑顔
昔日（きのう）見た夢 膨らます
根雪の下に 生氣あり
行くよ高島 春を待つ
ぐるっと高島 冬化粧